

ぼくらはみんな生きてい

生物多様性、つながる「いのち」

たぐひたぐひの生き物が暮らす地球

地球上には、分かっているだけで約百七十五万種、まだ発見されていないものも含めると三千万種の生き物が暮らしています。これらの生き物は、海や川、里、森などさまざまな環境の中で、互いに支え合い、そしてバランスを保ちながら生きています。

つながるいのちの生き物

地球上の生き物は互いにつながり合っており、いのちをつないでいます。

例えば、田んぼの中の生き物で考えてみましょう。田んぼの土の中には微生物やミジンコなどの生き物がいて、オタマジャクシやメダカなどがそれらを食べて生きています。また、稲を食べる書虫は、カエルやクモなどに食べられます。そのカエルやクモなども鳥に食べられます。



私たちの生活を支える「生物多様性」

生き物は「食べる・食べられる」という関係以外にも、「助け合う」「すみ分けする」など、いろいろな関係で複雑につながっています。たくさんの生き物がつながり合い、さまざまな環境に合わせて生きていることを「生物多様性」といいます。

私たち人間は、他の生き物からたくさんの恵みを受けています。どのような恵みを受けているのか、見てみましょう。

森林は水循環のバランスを整えたりしています。

森林や河川などは、安全な水の確保など、私たちの暮らしの安全を守る働きを持っています。

植物は光合成をして酸素を生み出しています。

食べ物、紙製品や衣服、薬なども生物多様性がもたらす恵みによって支えられています。



生き物が減っている？

一九七五年以降、世界では一年間に四万種の生き物が絶滅したといわれています。人間の活動による影響が主な原因で、絶滅のスピードは自然状態の約百〜千倍にもなっています。今もたくさんの生き物が絶滅の危機に脅かされているのです。

春日井の希少野生動物植物種

市内でも絶滅の恐れがあるなどで、保護が必要な動物植物が条例で定められ、捕獲などが禁止されています。

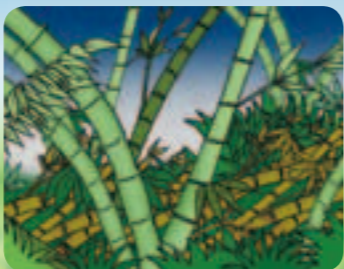


写真提供
①波多野 茂 ②高橋 匡司 ③三島 隆伸 ④宇都宮 靖博
⑤ヒメタイコウチ ⑥ヒメカンアオイ ⑦ギフチョウ ⑧ヨタカ ⑨シデコブシ ⑩ナゴヤダルマガエル

人間の活動が自然を壊している？



環境への影響に配慮せず、森を切り崩すことなどで、自然が破壊され、生き物がすめなくなったりします。



里山など、人の手により保たれていた自然が放置され、荒れてしまったことで、生態系のバランスが崩れています。

人間によって持ち込まれた生き物によって、もともとそこにすんでいた生き物が食べられたり、すみかを奪われたりしています。



地球温暖化により、気温が上がって生き物のすめる場所がなくなり、作物が実らなくなったりします。



このように生物多様性を減少させている原因の多くは人間の活動によるものです。たくさんの生き物がいなくなり、生物多様性が失われると、私たちの生活にも悪い影響が起きます。生物多様性を守るためにはどうしたらよいか、次のページで考えてみましょう。